

南窓会 だより

| 2017 |

CONTENTS

- 会長・校長ごあいさつ
- 卒業生に聞く
- 総会・懇親会報告
- 同窓会報告
- 支援金のご報告
- 進路結果報告
- 寄付金の御礼名簿
- お知らせ・編集後記



じあいさつ

南窓会会員の皆様におかれましては、益々「健勝のことと、お慶び申し上げます。

会長
齋藤 洋一

ご存知のように、松阪高校は明治43年（1910年）飯南女学校として創立し、今年で107年を迎える歴史と伝統のある学校です。

現在卒業生は3万2千人を超えて、多くの仲間が日本全国あるいは海外にて活躍されており、大変嬉しく誇りに思います。2011年には木の花同窓会・松中同窓会を正式会員として迎え入れ、さらに2015年には松高南窓会関西支部を第一号の支部として迎え入れるなど、同窓会も一層の発展を遂げています。また、南窓会だよりの紙面を2年に1回の発行となりました。毎年8月に開催される南窓会総会には、全国各地から会員が多数参加していただいている、母校の話題に花を咲かせ、在校当時の思い出を語り合っております。

今後も皆様と共に南窓会活動をさらに発展・充実させていきたいと願う所存でござりますので、更なるご理解・ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、母校の益々のご発展と会員各位のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、南窓会だよりの発刊のご挨拶とさせていただきます。

学校長
小林 豊昌



平成29年3月、三重県立松阪高等学校の第六十五回卒業証書授与式が行われました。卒業証書に書かれた最後の生徒の番号は「第三〇一八七号」でした。この卒業番号は昭和24年に行われた三重県松阪南高等学校第一回卒業証書授与式から数えた番号です。

松阪高等学校の創立は、明治43年です。その年に創立した飯南女学校を母体とし、昭和23年には三重県松阪南高等学校、いわゆる南高が発足しました。同じ年の10月、通信教育・開校式が挙行されました。昭和30年、校名は

三重県立松阪高等学校と改称され、以来松阪高校全曰制・通信制として、多くの素晴らしい人材を世に送り出していました。卒業生は飯南女学校から数えて三万一千人そしていよいよ三重県松阪南高等学校から数えて三万人の大台を越えました。大変喜ばしいことだと思います。そして今年も、新たに多くの新入生を迎えました。校歌の三番には「後に来るもの受け継ぎて学びの園を美しや」とあります。若い後輩たちが三万人を超える先輩方の後を継いで頑張っています。その若い後輩たちが頑張っているものの一つがスーパーサイエンスハイスクールです。

松阪高校は平成28年4月より、スーパーサイエンスハイスクールに指定されました。「我が国がさまざまな課題に直面することが予想されるなか、一人ひとりが高い志を持ち、さまざまな課題に対しても、自ら考え方をもって挑戦し、未だ未を切り拓く力を育成すること」を目的とした「課題探求能力育成プログラム」の開発と実践と、その改善が、本校の研究開発の目的です。研究開発の実施規模は、全科目普通科・理数科の生徒及び全教職員を対象とし、「課題探求能力を育成する学校設定教科「探究」の研究・開発」と「課題探求能力を高める諸活動の研究・開発」を目標に、この1年間、学校を挙げて取り組んできました。初年度は、第1学年321名（普通科241名・理数科80名）全員を対象に、学校設定教科「探究」の、「基礎探求（探究領域・表現領域）」「理数基礎探求（探究領域・表現領域）」「探究情報基礎」という3つの学校設定科目を配置し実施しました。「基礎探求（探究領域・表現領域）」「理数基礎探求（探究領域・表現領域）」はそれぞれ、「統計学分野」、「自然科学分野」、「社会科学分野」を含み、数学、理科の教職員ばかりでなく地歴・公民の教職員も指導にあたっています。また、表現領域については、国語、英語の教職員も指導にあたりました。

平成29年2月1日には、1学年321名全員が成果発表会（ポスター発表）を行いました。〈統計学分野〉の発表63グループ、〈自然科学分野〉の発表60グループ、〈社会科学分野〉の発表46グループ、計169のポスター発表が行われました。そして2月15日、ポスター発表の中より意識の高い研究を行っているグループによるステージ発表が行われました。生徒たちが生き生きと活躍する姿が見られました。松阪市と共同企画した合同発表会「松阪市CMコンテスト」では、2年生と1年生が制作した133作品のうちの14作品が発表され、高い評価を受けました。

また、大学進学実績でも後輩たちは頑張っています。国公立大学の合格者数は、昨年度が現役127名・浪人15名、今年度は現役125名・浪人4名でした。京都大学や医学部医学科にも合格しています。

松阪高校は今年創立百七年目を迎えます。今頑張っている生徒たちが松阪高校を卒業し、南窓会が益々発展することを心より祈念しています。

卒業生に聞く

Q 気象庁で働く
きっかけは?

これをやりたいと思っていても実際は違う道に行くという、よくある話です。電子工学の知識を持っていることで採用になり、総合職で気象庁に入りました。最初の赴任先は鹿児島の気象台で、火山を中心に勉強をさせてもらいました。地質学者や火山のことに特別詳しいわけではなかったので、仕事上やらざるを得ない中、専門的な勉強もしました。大学の先生とのお付き合いもあることから、勉強させていただく機会は多いです。学会で火山に関する発表もしています。

東京の本庁に戻ってからは、内閣府や文科省の地震調査委員会にも携わりました。
『気象庁火山課長を務めていた時は、事が起これば2時間以内に記者会見を開くので、全く東京を離れられませんし24時間対応でした。松阪にはお正月しか帰れませんでしたね。

Q 地震と火山の関連性はありますか?

もちろん関連性はあります。日本の火山は、全世界の10数パーセントを占めています。地震もたくさん起こります。その原因がほぼ同じところにあります。東南海地震のことをよく聞かれますが、何年後に起きるとかまでは判っていません。

100～200年に1回の周期で確実に来ることは間違いないので、それが自分たちの生きているうちに来るかどうか…ですよね。

地震の調査研究も、地面を掘ったとしても1000mくらいしか調べられず、実態をつかむのが困難なのが1つと、繰り返しの周期が何千年に1回の事象に対し、近代的なデータが取れているのがたった100年なので、その中の研究で何千年に1度の事を解るかというと、とても難しいです。噴火活動を何千年もお休みしている火山もたくさんあります。

松高29回生 理数科(S51年度卒)
京都大学工学部電子第2学科卒
1986年気象庁入庁。気象研究所地震火山研究部、内閣情報調査室、文部科学省研究開発局地震調査管理官、盛岡地方気象台長、気象庁火山課長を歴任。現在は、気象庁地磁気観測所長を務めている。日本火山学会理事も歴任。



電子工学科から 気象庁の道へ

気象庁地磁気観測所長

北川貞之さん

Q 在校生へメッセージ

これから専門学校や大学に進む方が多いと思います。好きなことに取り組むのが一番ですが、その中で自分の目指していることが、たまたま軌道がずれていったとしても、その場その場でいろんなものに興味を持つことを大事にしてもらいたいです。他にも面白いことがたくさんありますし、若いうちにしかできないことですね。私の場合は、興味を持ったものが多くてやりすぎてしまいましたが(笑)

Q 学生時代の思い出

中学からずっと卓球部で高校でも部活に明け暮れていました。ガリ勉少年という感じではなくなりました(笑)すぐ負けましたが、東海大会にも出場しました。
アマチュア無線部にも所属していました。仲間と切磋琢磨して技術を磨き合い、在学中に一級アマチュア無線の免許を取りました。コンテストに出たり、アンテナを作つて海外にモールス信号を飛ばしたり。友達や仲間に恵まれていたと思います。この活動は、電子工学科の大学に進むきっかけになりました。

また、小さい時からバイオリンを続け、特に大学の時は熱心にやっていました。今でもオーケストラの一員として演奏会に出たり、忙しい中でも演奏しています。

今までの赴任先は、鹿児島、東京、盛岡ですが、その土地と比べると、まず気候がちょうど良くなっています。盛岡は雪も大変ですし、鹿児島の夏はとても暑く、さらに雨の降り方が強くて土砂降りです。桜島の火山灰も降ってくることも。あと、各地おいしいものはありますが、松阪の食べ物は、肉魚野菜、なんでも新鮮でおいしいですよね。

Q 外に出てから松阪の印象は?

やりたい仕事を × 社会貢献を実現

Q 今の仕事を選んだ背景は？

「社会に貢献する仕事がしたい」という想いを持ち、大学卒業後すぐに青年海外協力隊に参加。理数教師としてフィリピンで3年間過ごしました。配属された地域には互いに助け合う「コミュニティ」があり、現地の暮らしへ物質的な豊かさはなくとも、すこしく幸せそうに見えました。帰国後は自分の生まれ育った地域社会で仕事をしたいと思いました。

Q なぜ「大杉谷自然学校」を立ち上げたの？

自分が大台町でどう暮らして食べていいかを考えた結果、「環境教育」「自然学校」がいいと考えました。今の子どもは自然体験から離れている、と感じたのがきっかけです。例えば、火を見たことがない、川遊びも魚釣りもしたことがない子どもが増えています。ちょうど平成11年に大杉谷小学校が閉校し、地域から「さみしい」という声もありました。東京や北海道などで自然学校の運営ノウハウを学んでいたこともあり、施設の活用法として「大杉谷自然学校」の企画を町に提案しました。その結果、平成13年大杉谷自然学校が設立されました。※当時は任意団体だったため。

Q 今後力を入れたいことは？

失われつつある地域社会の文化、生活の知恵や技を引き継ぎ、「体験」を通して伝えていくことが重要だと考えています。インターネットなどでは情報があふれる現代、子どもも知識としてたくさんることを知っています。でも体験を通して知るのは全く別物です。また子どもたちには自然のきれいな部分だけでなく、一步踏み込んだ「リアル」も伝えていきたいですね。例えば、大台町の山の多くは、スギ・ヒノキの植林です。しかし、木材の価値の低下により、手入れされず荒廃しています。またダムができたことで、川の水が汚くなり、鮎が上がつてこなくなりました。人間の利害のためにしたことの影響が思いもよらないところに出ている、という問題提起を通じて、現代社会を問いかけてこなっています。私たちの役割だと考えています。

ふるさとに自然学校を設立
大西かおりさんにインタビュー



Q 大杉谷ってどんなところ？

宮川の源流に位置する、日本国内の「発展途上国」のような場所(笑)。高齢化率は71%の過疎化が進む超限界集落です。しかし、自然豊かで日本古来の価値観が残り「自然と共に生きる暮らし」があります。昔ながらの生活文化が今も息づいています。

Q 自然学校ってどんなことをするの？

年間通して、環境教育、調査研究、地域支援などの事業を行っています。主に子どもを対象にした自然体験では、宮川をフィールドにキャンプをしたり、地域の高齢者から伝統漁法などの生活の知恵を教わったり…。

Q 在校生へひと言

つながりあい、助け合う地域社会で生きる人は「幸せ」を感じる率が高いといわれます。現代は経済中心の社会ですが、日本古来の地域社会には、経済価値では測れない、自然と共に暮らしてきた独特の価値観があります。ぜひそれを地域社会から感じてほしいですね。また大杉谷自然学校では、子どもたちの自然体験をサポートするボランティアも募集しています。関心のある方はお問い合わせください。

大西かおり PROFILE

松高43回生(H3卒)
昭和47年(1972)三重県大台町生まれ。大杉谷自然学校校長。大台町で生まれ育ち、平成13年4月大杉谷自然学校設立。過疎高齢化の地域教育力を生かした環境教育を展開。

NPO法人 大杉谷自然学校
tel0598-78-8888 <http://osugidani.jp/>



時代をこえて松阪高校同窓会総会へ 参加しませんか？

みなさんは松阪高校同窓会総会に参加されたことはありますか？松阪高校同窓会は卒業生の学年の垣根を超えた同窓会で、毎年8月に総会が開催されます。

2010年から「学年幹事」を中心とした当番制で運営をしており、平成29年度は、昭和57年卒業生が学年幹事として担当し、サブ学年幹事の昭和43年卒業生、平成6年卒業生と一緒に運営します。

平成29年度の総会のテーマは「時代をこえて」といたしました。学年幹事の昭和57年卒業生の卒業アルバムのタイトルから引用しています。その卒業アルバムの編集後記には「幾年を経てこのアルバムを開いた時、高校時代を懐かしむと同時に、次の時代をこえていく糧にしてもうえれば・・・」と書いてあります。みなさんも高校時代というひとつの時代をこえ、卒業後はそれぞれの時代をこえられてきたことだと思います。まだ卒業して1年の方も、早数十年の方もいらっしゃると思いますが、ちょっと卒業アルバムを開いてみてはいかがでしょうか。懐かしい顔に思わず顔がほころぶのではないかでしょう。総会の後は、卒業生同士の交流を深めようと懇親会も行われます。時代をこえて、松阪高校同窓会総会でお会いしましょう。

[日 時]	平成29年8月5日(土)
[受 付]	15:00～
[総 会]	16:00～
[懇親会]	16:45～
[場 所]	フレックスホテル 松阪市中央町36-18 TEL0598-52-0800
[会 費]	5,000円 (コース料理・飲み放題)

総会・懇親会報告

● 平成27年

メイン担当学年幹事 昭和55年卒業生

平成27年の南窓会総会と懇親会は、185人の同窓生の皆さんに参加していただき、盛大に開催されました。総会と懇親会は、私たち昭和55年卒の学年が運営の中心となる学年でしたので、年明け早々から会議を重ね、南窓会の周知のためのポスターのデザインの決定から当日の懇親会での食事の内容、懇親会の中でのイベントの決定等当日まで不安でいっぱいでしたが、終わってみれば本当に有意義な楽しい一日でした。

当団は、昭和55年卒の同級生も五十数名参加しましたので総会の懇親会の後は、久しぶりに集まる同級生と場所を変えての「次会、二次会」で、さらに楽しい時間を過ごすことができました。南窓会総会と懇親会は年に一度、松阪高校の卒業生が一堂に会する唯一の機会です。同窓生が集い、学年の壁を越えて交流するのが本来の目的ですが、まずは自分たちの学年の同級生が集まる機会と考え、ぜひ多くの同級生を誘って参加してみてください。

本年もさらに多くの同窓生が集まることを期待しています。

● 平成28年

メイン担当学年幹事 昭和56年卒業生

平成28年度の総会・懇親会は、昭和56年卒の学年がメイン幹事として担当させていただきました。準備のための幹事を年明け早々より月1回から2回のペースで実施しました。まず、テーマを「青春回輝～ここに集ひし夢～」として、テーマに合うポスターとチケットの図案を考案しました。次に、昭和56年卒は学年の参加数が多いと見込まれたため大まかな出席者数を知るために新たな取り組みとして、同窓会HPに特別サイトを作つていただき、人數把握をしました。

総会は8月6日に松阪のフレックスホテルで、過去最高参加者230名の方にお集まりいただき盛大に開催することができました。総会は、肃々と進み、すべての議案は可決されました。その後に懇親会が開かれ、最初に、松阪高校ダンス部のアトラクションが行われました。懐かしい曲に合わせて、ダンスをコーディネートしていただき、懇親会は盛り上がりました。先輩諸氏と懇談をする中で、松阪高校は地域に信頼されて実績を積み重ねてきたこと、そして、それを支えてこられた同窓会の方々の存在があつたことを実感しました。

総会・懇親会の後学年幹事の第33回生が集まり、フレックスホテル2階で、参加者100名を超える同窓会を開催しました。全国からこのために集まってきた懐かしい顔や年相応に年輪を感じる姿を見ると、なぜか高校時代に戻った不思議な気持ちになりました。今回のテーマ「青春回輝～ここに集ひし夢～」そのままだったよう思います。狭い会場であつたために、同窓生同士の心の距離がすぐになくなっていました。時間が経つのも忘れ、宴会は進みました。最後は、同窓生みんなで応援歌を歌い、再会を約束しました。



同窓会

Alumni Association

話が出たが、我々は年齢のこともあり創立気運が高まれば協力することでした。

今年は、卒業後60年、節目の年、若かりし青春を懐かしみ、話は盛り上がり、カラオケで得意の歌を、そしてbingoゲームでは皆数字板に釘付け、童心に帰ったようでした。

「いつまでも健康の続く限り出席しようと」と誓い、「体調に気をつけて来年も会いましょう」を合言葉に散会しました。



第13回生 昭和36年卒 池田 世輝夫

●「三六会」平成28年10月24日

昭和53年から隔年で開催されてきた学年全体の同窓会も19回目となりました。

連絡の取れる442名の同窓生に案内状を送りましたが、中には他界しました、体調不良のため、夫・妻の介護のため等残念ながら参加できないとの返信が多くありました。参加できた者は、当曰体調不良のため出席できずとの連絡等もあり、予定の62名を割ってしまい、年々寂しくなってきました。74歳と言う年齢からすれば止むを得ないことかもしません。これから先のことを考えれば、不安が増す一方ですが、たとえ参加者が少なくなつても元気な者だけでお互いの健康を確認し合える喜びを感じられたら幸せなことだと思います。

当日は台風が接近していることを心配して

おりましたが、無事コ一

スが逸れてとても素晴らしい天候にめぐまれました。今回は会場も松

阪駅からも近いフレックステルを用意しま

した。宴の前に既に他界された仲間の冥福を祈

り黙祷をしました。宴席は最初クラス単位の

テーブルを囲んでお互

いに人々の挨拶を交わ

が全員25名の艶やかなピンクのロングドレスにも圧倒されました。

乾杯のあと閉会し、その後待ちかねた和やかで若々しい会食の刻を持ちました。毎回のことですがこの一刻はいいものです。8時30分互いに再会を約し終了しました。有志の者約35名で貸切りのスナック「松葉」「泰子」の2店の協力を得てカラオケ飲み放題で盛り上りました。

第8回生 昭和31年卒 H28開催 前嶋 邦彦

●平成27年9月17日(木) 於 松阪フレックスホテル

当日雨の中、1組から10組の参加者58名、喜寿を過ぎ年々参加者の減るところ、多くの出席者を得て開催しました。集合写真撮影では、学生時代のクラス写真の想いで溢ました学生三分だったが、写った顔はやはり70数年の歳月を経ていました。しかし、宴が始ると若かりし同窓生に戻り、卒業アルバムのDVDを見ながら学生時代に花を咲かせ、自身の学生服、セーラー服姿を見て懐かしんでいました。また、修学旅行は東京と九州の2コ一スに分かれ、夜行列車に長時間乗り、箱根・日光・東京または大牟田・坊中・別府を各駅ごとに列車とバスを乗り継いでの見学・観光を思い出し、現在との格差を感じていました。

また、歓談の話題の中心は、お互いの健康、友人の消息で、毎年開催の同窓会、来年は卒業して60年、是非元氣で再会を約し、お開きになりました。

第8回生 昭和31年卒 H28開催 前嶋 邦彦

●寄る年波に向かって

同窓会の案内ハガキを出してから連日電話が掛かり、また返信ハガキでも体の不調や認知症を訴え、間際まで参加者数が確定せず。昨年の同窓会ではこのような事態は極少数だったのがこの一年間で急増した。8月19日会場(松阪フレックスホテル)では、まだ現役の人、各分野で活躍している人等々がいて健康の大切さを痛感していました。「もう79歳」と思わず、「まだ79歳」と思い、何かにつけ生涯現役の想いで立ち向かう気力充実の維持に心掛けることを約した。

また、東京三会から、県下他校にはあり、そして個々には同窓会活動をしているので、本校の関東支部創立の



5

し合いました。その後は時間の許す限りクラスを超えて親しかった友と飲み、食べながらの「語らい」を中心の形をとりましたが、中には十数年振りに再会する仲間も多く、話は尽きぬほど楽しい時間が持てました。話の中身はやはり高校時代を懐かしむ者や、子どもや孫の話題、近況報告ではお互いの健康状態の情報交換が多かったようです。でも老人会の集まりとは異なり、中には現役でバリバリ活躍している仲間も多く、とても活気のある会の様相を呈していました。

とりあえず今回は健康寿命をクリアーした参加者ばかりでしたが、今度は平均寿命までは元気を維持することを目標にお互いの再会を約束しあい、無事次期の幹事4組にバトンタッチすることができましたことを報告いたします。

第14回生 昭和37年卒

西尾 隆

●73歳！未だ青春真っ只中です

卒業して早いもので55年！在学中は紺色の「MHS」のバッヂに誇りを持って通つた仲間達で『松高37会』との名にて41歳から毎年2月11日に同窓会を行っています。



年卒は東京大学へ3人、医師は8人と…当時県内屈指の進学校でした。そうして自由な雰囲があり、皆硬派であり、すぐく仲良でした。

まだ73歳。しかし60人余りの仲間が亡くなり淋しくなる一方です。私達仲間は2人になるまでこの会を続けるよう！と、皆で約束しております。来年も元気で素敵な仲間達に会えるように…2月11日を楽しみに待つております。

第16回生 昭和39年卒

谷岡 修

●50数年ぶりのフォーカダンス

平成4年から始めた同窓会も今回で10回目

なので記念同窓会と位

置付けていくつかのイベントを催しました。まずは始めは同級生のギタリストによるソロ演奏、当時のヨーロッパ映画の主題歌から、数曲弾いてもらいました。



第28回生 昭和51年卒

服部 章之

起てる臺びと落胆のどよめき、会場の盛り上がりは最高潮でした。

今年は32回目で、78名の仲間達が集まり、4時間余り青春に戻り、飲み、楽しい時間を過ごしました。

また、東京（みなと会）、大阪（なにわ会）、名古屋（花の木会）に支部があり、30年前から毎年各支部主催の集まりがあります。私達37

第27回生 昭和50年卒

堀山 勝代

本部からの援助金ありがとうございます。

私たち昭和50年卒「松高27期会」は、1995年（卒業後20年）に

第1回学年同窓会を開催し、約5年ごとに開催を続けています。今回は、還暦を迎える前の1月に集まりました。参加者は少ないものの、恩師も迎え懐かしく有意義なものになりました。

クラス・学科の違いはあっても、恩師から当時の思い出話を聞きし、42年前の自分を思い出しました。ゲームで、お年玉をゲットしようとしたんですが、恩師の手元に。

各クラスの中心になってくれる人が集つたので、本年4月16日に多くの参加者を得て、還暦同窓会を開催することになりました。



過去5回、オリンピックの年の1月2日に同窓会を開催していましたが、20年の節目を迎える今回、趣向を変えて5月のGWに開催したところ、正月2日では出席が難しかった多くの方々の参加もあり、第2回以来の二桁の101名もの出席をいただき、一次会も55名もの参加という大盛況でした。当時の担任団からは高松蓮丸先生にもご列席いただき、遠くは鹿児島からの出席者もありました。

くじ引き他、新しい試みとしてのフォーランダンスも好評で、ひととき高校時代に戻って楽しみ、旧交を温めました。

また、出席者全員の賛同を得て、4月の熊本・大分大震災へ義援金280,000円を「クラブ28」にちなんで多少ながら寄付させていたところができたのも嬉しいことでした。

「2020年東京オリンピックの年に会いましょう。」を合い言葉に、またこれから4年間をがんばっていきたいと思った一日でした。



第31回生 昭和54年卒

佐藤 浩二



●今会うとかないと…！

平成27年5月3日。

松阪市高町の華王殿にて、昭和54年卒業生の3度目の同窓会を行いました。

今春、一人の級友の計報に接し同窓会開催を決めた幹事グループの、「今会うとかないと後悔しちゃうよー！」の呼びかけに、ゴールデンウイークの5月晴れの下、集まってくれた同級生は約80名。ま

ずはすでに鬼籍に入った友人たちに黙祷を捧げ、乾杯の後は、懐かしい写真や音楽をバックに和気藹々。すぐ心は高校時代に戻り、学生服とセーラー服に身を包んだ幹事が賞品を渡す大抽選会で会は最高潮に達しました。2次会にも約50名が参加。別際『卒業写真』のメロディーに声を合わせ、詞に思いを重ねました。卒業から36年。それの歳月を歩んできた私たちですが、松阪高校で、伸びやかに心豊かな青春時代と共にできることに感謝し、原点に返り、明日への力を新たにする意義深いひとときとなりました。

第66回生 平成26年卒

瀧口 愛

平成28年1月9日、松阪フレックスホテルにて、平成26年卒業生の同窓会が催された。卒業から長い時間が経過したわけではないが、成人を迎える節目ということもあり、皆少し大人びた雰囲気を纏っていたように感じた。

当時の各クラスの代表者総勢16名が中心となり、会場確保や受付、レクリエーションの準備を進めた。立食形式の食事中には自身の近況報告や思い出話に花を咲かせ、食後には記念写真を撮影する姿が目立った。全体として皆が協力的であり、松阪高校の卒業生らしさを感じられる一方で、メインイベントとも言えるビンゴゲームでは代表者が用意した景品を狙い夢中になる姿には高校時代と同じあどけなさが感じられた。

卒業から2年が経過し、旧友との再会に明るい表情が多い会であった印象が強い。今回の参加者は209名であつたが、残念ながら今回不参加であつた人も南窓会が私たちを繋いでくれていると感じられる会であつたと想う。

第67回生 平成27年卒

加藤 友

平成29年1月7日にフレックスホテルで同窓会を開催しました。150人以上の人々が集まり、高校時代の

思い出を語り合しながら食事を楽しみました。高校以来会っていない友人にも会うことができたり、たった2年にもかかわらず、高校のときは全然違う姿になっている人がいて驚いたり、安心して話ができたりと、楽しい時間を過ごすことができました。

同窓会を開催し、改めて松阪高校でよかつたなと思いました。



各学年同窓会をお考えの幹事の皆様へ

同窓会本部会計より、はがき・切手など通信費に対する補助金を出させていただいています。補助額は、平成27年度より20,000円となりました。

学年単位の同窓会が対象で、単年度1回のみとなります。同窓会開催年度内に申請してください。

また、同窓会開催後は、同窓会の様子を写真を添えてご報告いただきますようお願い致します。「南窓会だより」等にも掲載させて頂きますので、ご了解ください。

支援金のご報告

南窓会の皆様よりご支援をいただきありがとうございました。各クラブとも支援金を有効に活用して、皆様方のご期待に応えるよう頑張っておりますので、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第34回東海高等学校弓道選抜大会

五月の県総体では、女子個人の部で萩野咲良（3年）が5位に入賞し、東海大会出場を決めました。女子団体の部では、準々決勝で惜しくも敗れ、残念な結果となってしまいましたが、個人たのは、全員の力だと思っています。

6月20日・21日に静岡市北部体育馆で行われた東海総体剣道競技では、二回戦岐阜県四位の選手と対戦し、負けてしまいました。女子の活躍を見て、次は男子も続けと稽古に励んでいます。



弓道部

H27

第62回東海高等学校総合体育大会・弓道競技出場！

平成27年度三重県高等学校総合体育大会の弓道競技・女子個人の部において、3年生の菅梨湖さんが3位に入賞、東海総体出場の切符を手にしました。大舞台の中で緊張やプレッシャーを力に変え、精神を集中させた堂々とした立派な射を披露し、監督席で見ていた私も鳥肌が立つ思いでした。



剣道部

H27

男子ソフトテニス部

4月に伊勢市 場庭球場で行われた三重県予選でベスト16に入り、東海総体出場権を獲得しました。

キャプテンになつて以来、大会で結果を残すことができず、悔しい思いをしてきましたが、この試合に勝利した時は本当に嬉しく、今まで支えてくれた方々全員に感謝の気持ちで一杯になりました。

6月に静岡市草薙総合運動公園庭球場で行われた東海総体では全力でプレーしましたが1回戦敗退。しかしながら、他県のチームと試合することで東海総体の緊張感を経験することができ、良かつたと思っています。



女子ソフトテニス部

H27

6月に北海道札幌市円山公園庭球場で開催された、第44回ハイスクールジャパンカップソフトテニス大会にシングルスで出場。嬉しさと同時に、不安もありましたが、大会期間中は、現地の松阪高校の卒業生の方々にいろいろな場面でサポートをいただき、とても心強かったです。

全日制陸上競技部

H27

第18回東海新人陸上競技大会 6位入賞

朝より寒さが増し、向かい風のタフなコンディションの中で、1m90を1回目でクリアして、6位入賞しました。来年同会場にて、陸上競技場（岐阜市・10月）で行われた第18回東海新人大会に出場しました。

昨年度に引き続き、奥本浩平（2年）が男子走高跳で、メモリアルセンターで男子走幅跳で、メモリアルセンターで男子走幅跳で、メモリアルセンターワークスで出場。嬉しさと同時に、不思議な感覚を経験することができ、良かつたと思っています。



水泳部

H27

2年生の太田菜那さんは6月、三重交通スポーツの杜鈴鹿水泳場で行われた三重県高等学校選手権水泳競技大会において予選を通過。7月には古橋廣之進記念浜松市総合水泳場を会場にした第62回東海高等学校総合体育大会水泳競技に出場しました。



東海大会では惜しくも予選を通過できませんでしたが、8月に行われた三重県水泳競技新人大会において、200m自由型で2分10秒55というタイムで優勝するという好成績をおさめています。来年も期待されます。



第50回全国定期制通信制 陸上競技大会

通信制
陸上競技部
H27

今大会は8月、駒沢陸上競技場で開催されました。男子生徒1名が参加しました。通信制のため部活動などの練習環境はない中、三重県予選では見事優勝。全国大会に向けてトレーニングを積んできました。結果は残念ながら予選敗退に終わりましたが、とても良い経験となりました。華やかで大きな舞台に立てたことが良き思い出となり、これから的人生において大きな自信になると思います。



第62回NHK杯全国高校放送 コンテスト 全国大会出場 準決勝進出 制作奨励賞受賞

放送部
H27

NHK杯放送コンテスト三重県大会において、テレビドキュメント部門で奨励賞、テレビドラマ部門とアナウンス部門では優秀賞を受賞し、昨年度に続き、東京で行われた全国大会に出場することができ、初の準決勝に進出、入賞することができました。本校の作品を観た沖縄県の生徒が「面白く制作の参考になった」とメッセージを寄せてくれました。他にも多くの感想が寄せられ、部員たちにとっては大変貴重な経験になりました。



文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

7月、東京の日本棋院会館において開催されました。他の生徒に圧倒され、なかなか力を発揮できまままで試合が進む中、3回戦は惜しいところで相手を追い詰めまし

囲碁部
H27

囲碁選手権大会が開催されました。他の生徒に圧倒され、なかなか力を発揮できまままで試合が進む中、3回戦は惜しいところで相手を追い詰めまし

たが、僅差で敗れ一勝もすることができず、大会を終えました。最後の試合は非常に残念な負け方だったのですが、次回はこの雪辱を晴らしてくれることを期待しています。

全国高等学校総合文化祭 滋賀大会 囲碁部門大会

7月、滋賀県で行われた全国高等学校総合文化祭囲碁部門大会に、三重県の代表として個人戦に出場しました。2日間を通して4勝2敗と勝ち越すことができ、結果は48人中11位。最後まで諦めずに戦うことができました。直前に行われた全国選手権大会での経験を元に、短期間ながら練習できたことが結果につながったと考えています。



将棋部 H27

7月、米原市にて行われた全国高文祭・全国高校選手権大会に、11月には、



全日制 陸上競技部 H28

第63回東海 高等学校 総合体育大会

6月に岐阜県・長良川スタジアムで行わ

れた近畿高文祭に出場しました。1月には阿蘇市にて開催の全国高等学校新人大会に出場。一つひとつの大変に実力をつけ、さらに上位を目指していきたいと思います。

本番当日は、音楽の時間が少なく、悔いの残る部分もありましたが、部員一同、精一杯の演奏ができました。また、他校の演奏がとてもよい刺激となり、今後もより一層練習に励んでいこうと思います。



女子 ソフトテニス部 H28

6月に岐阜県瑞浪市で開催された東海総体学校対抗戦に出場しました。東海総体学校対抗戦で試合をして、相手に食らいついでいたことは、チーム全体としての自信に繋がりました。



弓道部 H28

5月、三重県高校総体において、3年生村田菜津美が女子個人の部3位に入賞し、東海高校総体に出場しました。年村田菜津美が女子個人の部3位に入賞し、東海高校総体に出場しました。緊張感の中予選は8射7中で決勝へ。決勝5射目からは通常より小さい24cm星的に変わりましたが、動搖することなく的中し続け、優勝を射とめることができました。緊張感の中重ねた見事な行射でした。キリッとした表情で迷いなく引けたのは曰頃の努力の成果だと感じました。



第63回東海高等学校総合 体育大会・弓道競技 女子個人の部優勝

年村田菜津美が女子個人の部3位に入賞し、東海高校総体に出場しました。

放送部
H27

NHK杯放送コンテスト三重県大会において、テレビドキュメント部門で奨励賞、テレビドラマ部門とアナウンス部門では優秀賞を受賞し、昨年度に続き、東京で行われた全国大会に出場することができ、初の準決勝に進出、入賞することができました。本校の作品を観た沖縄県の生徒が「面白く制作の参考になった」とメッセージを寄せてくれました。他にも多くの感想が寄せられ、部員たちにとっては大変貴重な経験になりました。

本番当日は、音楽の時間が少なく、悔いの残る部分もありましたが、部員一同、精一杯の演奏ができました。また、他校の演奏がとてもよい刺激となり、今後もより一層練習に励んでいこうと思います。



女子 ソフトテニス部 H28

6月に岐阜県瑞浪市で開催された東海総体学校対抗戦に出場しました。東海総体学校対抗戦で試合をして、相手に食らいついでいたことは、チーム全体としての自信に繋がりました。



囲碁部
H27

囲碁選手権大会が開催されました。他の生徒に圧倒され、なかなか力を発揮できまままで試合が進む中、3回戦は惜しいところで相手を追い詰めまし



の2種目に出場しました。

降雨や向かい風のコンディションの悪いなかで、全国大会出場を目指し、大会に臨みましたが、持っている力を發揮させることができずに、苦い思いをさせてしました。

通信制陸上競技部 H28

第51回全国定時制通信制 陸上競技大会

今大会は8月、駒沢陸上競技場で開催されました。男子生徒1名が参加しました。通信制のため部活動などの練習環境はない中、三重県予選では見事優勝。駒沢での全国大会に向けてトレーニングを積んできました。結果は残念ながら予選敗退になりましたが、今回の経験をばねに来年の出場に向けさらに努力を重ねていくことと思います。また来年この場所へ来るという目標が彼をさらに成長させてくれると信じています。



通信制剣道部 H28

第47回全国高等学校定時制 通信制剣道大会

大会は8月の非常に暑い時期に、東京都日本武道館で開催され、男子生徒1名が個人戦に参加しました。通信制の生徒であるので普段は部活動などの練習環境はありませんが、地元の少年剣道教室等で子供たちの指導をしながら稽古をしています。結果は1回



将棋部 H28

8月、福山市にて行われた全国高校総合文化祭では個人戦で19位、11月の近畿高等学校総合文化祭の個人戦で6位、同月の東海大会では個人戦で4位、6位をとることができました。毎年一人だった部員が今年は三人まで増え、活発な活動をすることができ大変嬉しく思っています。

囲碁部 H28

県代表として
7月、全国高校
囲碁選手権大会
の個人戦と団体
戦に出場しまし



放送部 H28

第63回NHK杯全国高校放送コンテスト 全国大会「入選」
第40回全国高等学校総合文化祭
広島大会出場

NHK杯放送
コンテスト三重

県大会において、ラジオソース部門でト部門で奨励賞、アナウンス部門では3年渡邊みのりさんが2年連続県代表となる優秀賞、テレビドラマ部門では最優秀賞を受賞し、全国大会に出場することができました。

8月には第40回全国高等学校総合文化祭にも県代表として初出場。NHKホールで行われた大会には多くの高校生が訪れ、その中で生徒同士の交流、全国レベルの作品、アナウンスを観ることができ、貴重な経験ができました。



を目指し、練習に励んでいきたいと思います。

水泳部 H29

3年太田菜那子さん・1年西岡紗良さんは6月、三重交通スポーツの杜鈴鹿水泳場で行われた三重県高等学校選手権水泳競技大会にて予選を通過、7月、長良川スイミングプールを会場にした第63回東海高等学校総合体育大会水泳競技に出場しました。これからも一人とも期待されます。



ラグビー部 H29

「第69回三重県高校ラグビー新人大会10人制の部」で優勝し、3月に長良川メドウ競技場(岐阜)行われた「第4回東海ハイ10人制交流大会」に出場し、上位大会への参加権を得たことは生徒たちにとって大きな自信になったようです。



吹奏楽部 H29

第29回中部日本個人
重奏コンテスト本大会

【個人の部】

上ランペット独

奏 喜多麻尋(伴奏者 宮下莉
菜)銀賞

サクソフォン打楽器七重奏 銀賞
【重奏の部】

8月、福山市にて行われた全国高校総合文化祭及び全国高校選手権大会には3年生が女子個人戦、11月には、神戸市にて行われた近畿高文祭に1年生が男女個人戦にそれぞれ出場しました。兵庫大会では男子はB級戦で3位に入賞、女子はベスト8に入ることができました。今後もさらに上位入賞



過去3か年合格者人数一覧

今年度から過去3か年の進路実績は下記の表のとおりです。国公立大学合格者数は平成29年度は三重大47名(医学部医学科2名)を含み130名(現役126名)、平成28年度は京都大3名など難関大22名を含む142名(現役127名)。平成27年度は三重大53名(医学部医学科3名)を含む116名(現役108名)でした。今後とも後輩たちの進路実現のためのご支援を一層賜りますことをお願い申し上げます。

国 公 立 大 学	H29	H28	H27	合計
北 海 道	2	1	1	4
北 見 工 業			1	1
北 海 道 教 育			1	1
東 北	1			1
国 際 教 養			1	1
筑 波	1			1
埼 玉	1	1		2
千 葉	2			2
千 葉 県 立 保 健 医 療	1	1		2
宇 都 宮		1		1
前 橋 工 科				0
首 都 大 学 東 京		1		1
東 京				0
東 京 工 業		1		1
一 橋		1		1
東 京 外 国 語	2			2
横 浜 国 立			1	1
東 京 学 芸			1	1
横 浜 市 立	3			3
東 京 農 工			1	1
新 潟 県 立			1	1
長 岡 造 形				0
富 山		2	2	4
富 山 県 立		5	1	6
金 沢	1	3	1	5
福 井	2	1	1	4
福 井 県 立			3	3
山 梨			0	
都 留 文 科		1	1	2
信 州	3	4		7
岐 阜			1	1
岐 阜 藥 科	1			1
静 岡	8	6	4	18
静 岡 県 立		2		2
静 岡 文 化 芸 術	2	2		4
名 古 屋	4	9	4	17
名 古 屋 工 業	6	9	4	19
名 古 屋 市 立	1	5		6
愛 知 教 育	1	1		2
愛 知 県 立	3	1	2	6
愛 知 県 立 芸 術				0
豊 橋 技 術 科 学		1	1	2
三 重	47	40	53	140
三 重 県 立 看 護	3	10	5	18
滋 賀	2	2	3	7
滋 賀 県 立	1	1	1	3
京 都	1	3		4
京 都 教 育		2	1	3
京 都 工 芸 織 維		1		1
京 都 府 立	1			1
狭 路 府 立 医 科	1			1
大 阪	1	5	2	8
大 阪 教 育	1		1	2
大 阪 市 立	1	2		3
大 阪 府 立	4	2		6
神 戸	3	2		5
兵 庫 県 立	3	1		4
奈 良 教 育				0
奈 良 県 立	1	1		2
奈 良 女 子 学 校		2		2
和 歌 山			1	1
鳥 取			1	1
神 戸 市 外 国 語	1			1
岡 山 県 立			1	1
尾 道 市 立			1	1

廣 島	5	1	2	8
県 立 广 島	1	1		2
广 島 市 立			1	1
下 関 市 立	1		3	4
山 口	1	1	3	5
島 根		1		1
山 口 県 立	1			1
鳴 門 教 育		1		1
徳 島	2	2	1	5
高 知 工 科	1		1	2
北 九 州 市 立			1	1
佐 賀	1			1
熊 本 県 立		1		1
長 崎 県 立				0
大 分				0
宮 崎	1	1		2
鹿 屋 体 育 球			1	1
琉 球				0
国 公 立 大 学 合 计	130	142	116	388

名 古 屋 学 芸	4	6	5	15
名 古 屋 女 子	5	13	2	20
南 山	18	22	18	58
日本赤十字豊田看護	1	2	1	4
日本福祉	1	1	1	3
藤田保健衛生	1	14	3	18
名 城	55	50	24	129
皇 學 館	66	45	50	161
鈴 鹿 医 療 科 学	49	42	28	119
四 日 市 看 護 医 療	9	8	7	24
京 都 外 国 語	2	2	6	10
京 都 産 業	11	13	21	45
京 都 造 形 芸 術	1			1
京 都 女 子	2	4	8	14
京 都 橋	6	2		8
京 都 藥 科	1	2	1	4
同 志 社 志	20	21	13	54
同 志 社 女 子	2	6	1	9
佛 教	1	2	1	4
龍 谷	23	22	21	66
立 命 館	45	69	42	156
大 阪 芸 術	2		1	3
大 阪 工 業	1	5	3	9
大 阪 体 育	2	1	3	3
大 阪 藥 科	1		1	2
関 西 西	11	16	13	40
関 西 外 国 語	2	4	5	11
近 繩	32	32	20	84
摺 南	1			1
關 西 学 院	11	13	5	29
甲 南	3	8		11
神 戸 学 院			2	2
畿 央	1			1
岡 山 理 科			6	6
全 て の 私 立 大 学 合 计	580	650	610	1840

主 な 私 立 大 学	H29	H28	H27	合 计
慶 應 義 墓		1		1
早 稲 田	1	2	2	5
上 智				0
東 京 理 科	5	8	3	16
明 治	4	3	1	8
青 山 学 院	4		4	
立 教	3	1		4
中 央	2	5	6	13
法 政	5	2	5	12
学 習 院	1			1
日 本	5	2	4	11
東 洋		1	1	2
駒 澤	4	2	4	10
專 修	1	3		4
成 踏	1			1
國 學 院		2	6	8
拓 殖	1			1
芝 浦 工 業	2		1	3
東 京 電 機	2		1	3
工 学 院			3	3
東 京 農 業	1			1
国 士 館	1		3	4
日 本 体 育	2		1	3
武 藏 野 音 楽	1			1
武 藏 野 美 術	2			2
大 東 文 化			2	2
亞 細 亞	3	1	4	
帝 京	2	1		3
東 海	10	3	4	17
金 沢 工 業	2	5	2	9
岐 阜 聖 德 学 園	4	6	5	15
愛 知 知	24	15	39	78
愛 知 医 科		1		1
愛 知 学 院	6	12	13	31
愛 知 工 業	14	11	4	29
愛 知 淑 德	2	3	4	9
金 城 学 院	5	12	6	23
楣 山 女 学 園	2	3	4	9
至 学 館		1		1
大 同	2	2	10	14
中 京	15	25	18	58
中 部	7	7	11	25
豐 田 工 業		4		4
名 古 屋 外 国 語	8	7	14	29
名 古 屋 学 院	1	4	2	7

主 な 短 期 大 学	H29	H28	H27
三 重 短 大	8	5	6
高 田 短 大			1
岐 阜 市 立 女 子 短 大			1
四 天 王 寺 大 短 大			1
静 岡 県 立 大 短 大 部			1
東 京 農 業 大 短 大 部			1
武 庫 川 女 子 大 短 大 部			1
短 期 大 学 合 计	8	10	10
主 な 専 門 学 校 そ の 他	H29	H28	H27
國立三重中央医療センター三重中央看護学校	9	7	5
三 重 県 立 公 衆 卫 生 学 院	1		
水 产 大 学 校			1
航 空 保 安 大 学 校			1
松 阪 看 護 学 院			2
三 重 看 護 学 院			2
職 業 能 力 開 発 総 合 大 学 校			1
海 外 留 学	1	2	3
專 門 学 校 そ の 他 合 计	39	25	20
	H29	H28	H27
國 公 立 大 学	130	142	116
私 立 大 学	580	650	539
短 期 大 学	8	10	10
專 門 学 校 そ の 他	39	21	20
合 計	757	823	685

寄付金の御礼名簿

卒年

西田 通子 浅下 (東) 泰子 岡本 (松田) 知明 長束 吉博 山倉 (山本) れい 兵藤 広治 林 (長野) 郁子 南川 (阿部) 幸子 小林 (富内) 彰 加藤 哲郎 林 (長野) 郁子 南川 (阿部) 幸子 小林 (富内) 彰 加藤 哲郎

お知らせ Information

平成29年度 南窓会総会

とき

2017年8/5(土)

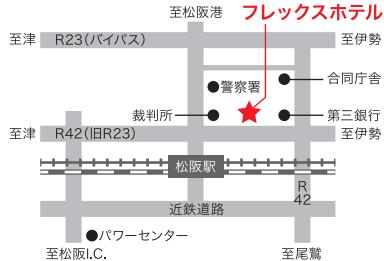
- 受付…15:00～
- 総会…16:00～
- 懇親会…16:45～

ところ

フレックスホテル
(松阪市中央町)

会費

一般5,000円
学生3,000円



参加をご希望の方は、チケットを事前にお求めください。
詳細は各学年幹事、または事務局までご連絡下さい。

ゆうちょ銀行口座 変更のお知らせ

いつも南窓会の活動を応援、支援していただきありがとうございます。この度、下記の通り、寄付を受け付けておりましたゆうちょ銀行の口座番号が変更になりましたのでお知らせ致します。送付した振替用紙はそのままお使いいただけますが、個人で直接講座にお振込みいただく方はお間違えないようよろしくお願い致します。

ゆうちょ銀行 店名(店番)089(ゼロハチキュウ)店 当座 口座番号 0188464 口座名称 南窓会(ナンソウカイ)

『南窓会だより』のペーパレス化について

2015年号でも少し触れましたが、“南窓会だより”の発刊総数が約30,000部(当然ですが年々増えております。)になり、発刊に際しての印刷費用・発送費用・宛名貼り等の費用が、南窓会の運営にとってかなり負担となっていました。また、2年に一回の発行で旬の話題を逃してしまうことも前々から課題となっていました。

そこで、編集委員会としましては次回発行よりペーパレス化に向けて取り組んでまいりたいと思っております。方向といたしましては、

①年に一度の発行にし、進路状況や支援金報告は毎年度ごとに更新したものを電子書籍化させホームページやFacebook等で掲載する。

②事前登録のある方においては紙での発送も可能とする。

等を考えております。まだ素案の段階で、変更するにあたっても総会での承認も必要となりますので、それまでに皆様のご意見・ご要望・ご提案等がございましたら、事務局までご連絡頂きます様お願い申し上げます。

編集後記

今年度より北隼人(松高32回生・S55年度卒)さんの後を引き継ぎ“南窓会だより編集委員長”的役を仰せつかりました内田俊哉(松高33回生・S56年度卒)と申します。

今回の卒業生に聞く一のコーナーでは、火山噴火ニュースの際によくテレビでお見かけした北川貞之(松高29回生・S51年度卒)さんと大杉谷自然学校の校長であられる大西かおり(松高43回生・H3年卒)さんにインタビューをさせて頂きました。北川さんにはご多用の中、大晦日の12月31日にお会いすることが出来、地震研究の奥深さ・日常生活でのオンとオフの切り替えの大切さを教えて頂きました。

また報道陣への対応の難しさも裏話でお聞きすることができました。大西さんは松阪より約70km離れた三重の秘境・大杉谷で自然の大切さを目の前にある自然を生かした実践教育で子ども達に教えてみえる姿に感動いたしました。

私たちには十分綺麗に見える大杉谷ですら、昔と比べると随分汚くなったと言うことにも驚かされました。

このように毎号2名と限られておりますが、“南窓会だより”では県内・県外を問わず松高OBの活躍ぶりを紹介させて頂いております。是非とも、自薦他薦は問いませんので、松阪高校同窓会事務局に情報をご提供していただきます様、宜しくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、今回の“南窓会だより”の発行にあたりご協力を頂きました方々に厚く御礼申し上げます。



松阪高校同窓会(南窓会)事務局

〒515-8577三重県松阪市垣鼻町1664 TEL・FAX:0598-67-4178 mail:nansokai@mctv.ne.jp

■表紙写真撮影:松高29回生(S52卒)株式会社ライオンズ写真館 安田和東 ■デザイン・印刷:松高48回生(H8卒)有限会社エムブレイン 田中正臣



発行

松阪高校同窓会（南窓会）

事務局 〒515-8577三重県松阪市垣鼻町1664 TEL・FAX:0598-67-4178 mail:nansokai@mctv.ne.jp